

2	一宮	丹陽南小学校	ハセガワアヤノ
			氏名 長谷川 礼乃
分科会番号	1	分科会名	国語教育(文学その他)

研究題目 生活に生きて働く国語の力を高める指導  
 言葉を大切に、主体的に学び合うことのできる児童の育成  
 ～語彙を豊かにし、「話す・聞く・伝え合う」をもとにした国語の授業づくりを通して～

### 1 研究のねらい

何のために国語を学ぶのか。この問いに即答できる児童はほとんどいないのではないだろうか。学習指導要領解説国語編の第2章第1節「国語科の目標」を開くと、教科の目標は次のように示されている。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

教科の目標にもあるように、国語では、日常生活の中で「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成が求められている。この目標の具現化を目指し、私は児童の「話す・聞く・伝え合う力」の育成を図りたいと考える。そのために、言語能力を支える重要な要素である語彙力を豊かにすることを基盤に、「その場に合った言葉を選び、使っていけること」、「自分の思いを言葉にし、伝えること」、「相手の伝えたいことに耳を傾け、相手の話を聞くこと」、「相手の話を聞いて、自分の考えを伝えること」を目指し、言語活動の質を更に高める授業となるよう本主題を設定し、研究を行った。

### 2 研究の方法

#### (1) 児童の実態(一宮市立丹陽南小学校 第3学年1組 27名)

教師や友達の意見を共感的に受け止め、国語の中でも特に物語文には意欲的に取り組むことができる児童が多い。しかし、自分の考えを進んで伝えることができるのは一部の児童に限られ、自分の考えに自信がもてない児童や、何となく思い浮かんでいることはあってもそれを表す言葉が見つけれず自分の考えを的確に表現することができない児童が多い。2年生時に実施した学力検査でも、「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を上回るものの、「知識・理解」「思考・判断・表現」の両項目は全国平均を大幅に下回っており、語彙力の乏しさや読み取りの浅さが課題であることが浮き彫りとなっている。

これまで、国語の授業の中で、本文中に出て来る言葉を辞書で調べたり動作化したりすることで、その言葉に含まれる登場人物の気持ちを想像しながら学習を進めたところ、気持ちを表す言葉だけでなく、動作を表す言葉や様子を表す言葉からも登場人物の気持ちが読み取れることに気づき、登場人物の気持ちを想像することができる児童が増えた。しかし、まだまだ全体的に語彙力は低く、せつかく自分の考えをもっていてもそれを表現する適切な言葉が見つからず話し合いの場で発表することができない児童も多い。そのため、朝の会のスピーチなどで話型に基づいて発表する機会を設けたり、国語の授業だけでなく他教科の授業や日記指導などでも、語彙を増やすための学習活動を継続したりしている。

(2) めざす児童像

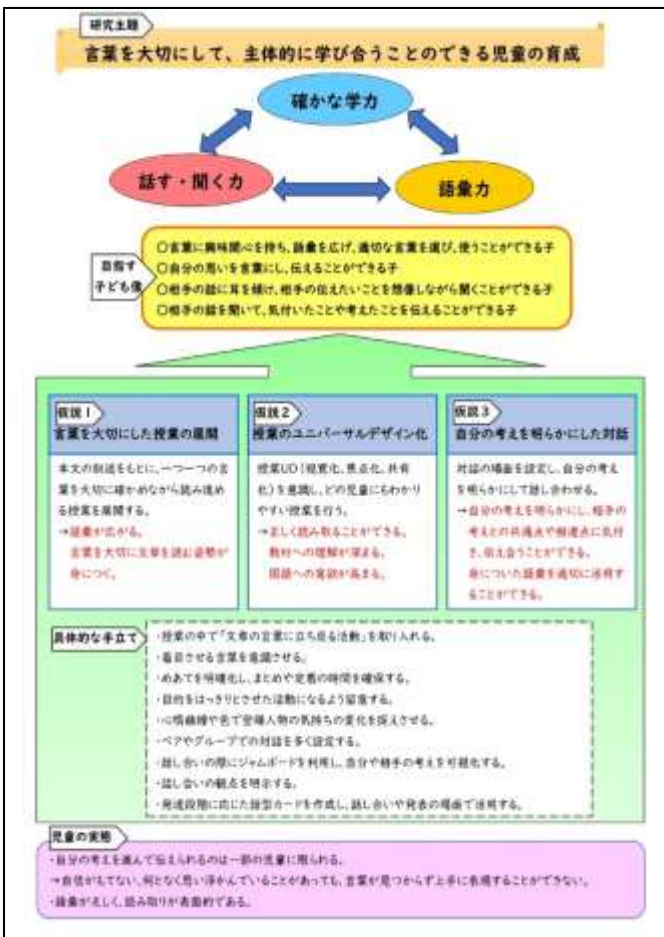
- ・言葉に興味関心を持ち、語彙を広げ、適切な言葉を選び、使うことができる子
- ・自分の思いを言葉にし、伝えることができる子
- ・相手の話に耳を傾け、相手の伝えたいことを想像しながら聞くことができる子
- ・相手の話を聞いて、気付いたことや考えたことを伝えることができる子

(3) 研究の仮説

- ① 本文の叙述をもとに、一つ一つの言葉を大切に確かめながら読み進める授業を展開することで、語彙が広がり、言葉を大切に文章を読む姿勢が身につくであろう。
- ② 授業のユニバーサルデザイン化(視覚化、焦点化、共有化)を意識し、どの児童にもわかりやすい授業を行うようにすることで、正しく読み取ることができ、教材への理解が深まったり国語への意欲が高まったりするであろう。
- ③ 対話の場を設定し、自分の考えを明らかにして話し合わせることで、自分や相手の意見の相違を考えながら伝え合うことができたり、身についた語彙を適切に活用することができたりするであろう。

(4) 研究の手立て

- ①授業の中で「文章の言葉に立ち戻る活動」を取り入れる。
- ②着目させる言葉を意識させる。
- ③めあてを明確化し、まとめや定着の時間を確保する。
- ④目的をはっきりとさせた活動になるよう留意する。
- ⑤心情曲線や色で登場人物の気持ちの変化を捉えさせる。
- ⑥ペアやグループでの対話を多く設定する。
- ⑦話し合いの観点を明示する。
- ⑧話し合いの際にジャムボードを使い、自分や相手の考えを可視化する。
- ⑨発達段階に応じた話型カードを作成し、話し合いや発表の場面で活用する。



【資料1 研究構想図】

☆考えを伝え合うときに使ってみよう

場面	話し方 書き方の例
レベル 1	
① 考え	～は、・・・です。たぶん、～だと思います。もし自分だったら、～です。
② 友達への考えに反応	○○さんの考えに 賛成(反対)です。 ○○さんの考えと 似ていて(ちがって)、～です。
③ 理由・わけ	なぜなら、～からです。 理由は、○つあります。1つ目は、～です。2つ目は、～です。
④ つけ足し	○○さんの考えにつけ足して、～です。
レベル 2	
⑤ 質問	○○さんに 質問します。 ～について もう少し くわしく教えてください。
⑥ 比べる	AとBを比べると、～が ちがいます。(同じです。)
⑦ 順序	まず(最初に)、～です。次に、～です。最後に、～です。
⑧ 内容をしぼる	特に～は、・・・です。
レベル 3	
⑨ 例をあげる	たとえば、～です。くわしく言うと～です。 具体的には、～です。
⑩ まとめ	このように、～です。つまり、～です。まとめると、～です。
⑪ 仲間分け	AとBは、～がにているから(ちがうから)、同じ(ちがう)仲間です。
⑫ 名前つけ	AからCの仲間をまとめると、～という名前になります。

☆友達が話した後は、必ず 反応(返事)をしましょう。  
→だれもが 安心して話せる雰囲気をつくるのが 学力向上につながるよ!

【資料2 話型カード】

### 3 研究の実際

#### (1) 単元名

「ちいちゃんのかげおくり」(三年 光村図書)

#### (2) 単元の目標

- ・登場人物の気持ちや様子・出来事について、場面を比べながら読むことを通して、感想や考えをもつことができる。
- ・登場人物の気持ちや性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて読み取ることを通して、登場人物の気持ちの変化を具体的に想像することができる。
- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句に着目することを通して、語彙を豊かにし、話や文章の中で使うことができる。
- ・文章を読んで感じたことや考えたことを伝え合うことを通して、一人一人の感じ方などに違いがあること気付くことができる。
- ・登場人物の気持ちや様子の変化について、進んで想像したり、心情曲線や文に表したりすることを通して、物語を読んだ感想をまとめようとするすることができる。

#### (3) 単元の指導計画

	学習活動 11時間完了
第1次	①戦争について事前学習をする。 ②「ちいちゃんのかげおくり」を読み、「場面をくらべながら読み、感じたことをまとめよう」という単元のめあてを設定し、学習計画を立てる。
第2次	③第1場面での出来事やちいちゃんの心情について叙述をもとに捉え、心情や周りの様子の変化を考える。 ④二つの「かげおくり」を比べる。 ⑤第2場面での出来事やちいちゃんの心情について叙述をもとに捉え、心情や周りの様子の変化を考える。 ⑥第3場面での出来事やちいちゃんの心情について叙述をもとに捉え、心情や周りの様子の変化を考える。 ⑦第4場面での出来事やちいちゃんの心情について叙述をもとに捉える。 ⑧第4場面のちいちゃんについてまとめ、どう感じたか話し合う。 ⑨第5場面の役割について考え、話し合う。
第3次	⑩理由とともに読書感想文に書き、読んで感じたことをまとめる。 ⑪感想を読み合い、話し合う。

#### (4) 実践と考察

##### ①言葉を大切に授業の展開について

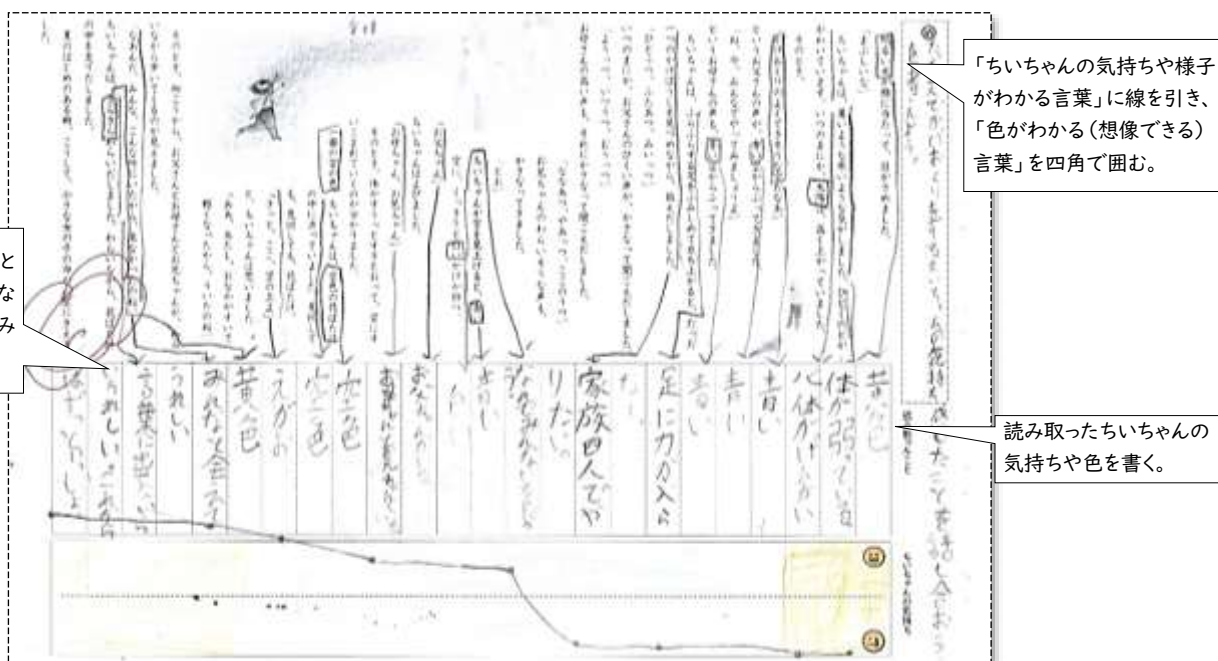
本教材には、「言いました」ではなく「つぶやきました」「きき返しました」や、「聞こえてきました」ではなく「青い空からふってきました」と表すような細やかな表現や、「ほのおのうず」などの臨場感あふれる情景描写、人物の心情を想像する手がかりとなる言葉が多く使われている。そこで、すべての場面において、本文から、「ちいちゃんの気持ちや様子わかる言葉」や「色がわかる(想像できる)言葉」を探し、そこから読み取ったことをワークシートにまとめさせた。毎回同じように探させることで、児童は、2場面以降は自発的に「気持ちや様子わかる言葉」「色がわかる言葉」を探し、着目するようになった。特に3・4場面では、ほしいいを「食べました」から「少しかじりました」に表現が変わっていることや「暑いような寒いような気がしました」と書かれていることから、主人公がだんだん弱って限界に近づいていること、「ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」という表現から、体は限界だけでもう一度かげおくりをしたいという強い気持ちを読み取っていた。また、「きらきらわらいました。」という表現から、黄色、白、金色などの明るく輝く色がイメージできるとし、そこから主人公の言葉に表せないほどの喜びを読み取った児童も

いた(資料3)。本文中の色彩を表す言葉とその時のちいちゃんの気持ちを一つ一つ結び付けて考えていったことで、学習が進むにつれ、児童の中に色と心情の共通イメージができ(明るい色:うれしい、幸せ、楽しい/暗い色:悲しい、寂しい、つらいなど)、「うれしい」などの心情を表す直接的な表現がなくてもちいちゃんの気持ちの変化を考えることができていた。

各場面において、めあてを「○場面のちいちゃんの気持ちを考えよう。」とし、まとめは「○○(出来事)して、□□(気持ち)なちいちゃん。」という形に統一した。それによって、児童は一人読みの段階からまとめを意識し、見通しをもって授業に臨むことができていた。まとめの際には、本文中の叙述か、本文中の叙述を根拠として読み取った言葉を書くように指示した。読み進めるにつれて、児童から「この場面のちいちゃんを表す言葉は『ひとりぼっち』だ。」「『ひとり』ではなく『ひとりぼっち』と書いてあるから、ちいちゃんの寂しい気持ちや不安な気持ちがかかる。」「『きつと帰ってくるよ。』というちいちゃんの言葉から、ぼくは『信じて待ち続けるちいちゃん』とまとめました。」というように、本文中の叙述を根拠として説得力のある発言が聞かれるようになり、めあてと一貫性のある本文の言葉を大切にしましたまとめを書くことができていた。

【児童の考えた各場面のまとめ(一例)】

- 1場面…家族四人でかげおくりをして楽しかったちいちゃん  
     かげおくりで家族四人の記念写真ができてうれしいちいちゃん
- 2場面…お母さんお兄ちゃんとはぐれてひとりぼっちなちいちゃん  
     ひとりぼっちになってかなしくてふあんなちいちゃん
- 3場面…家も食べ物もなくなってしまったけど信じて待ちつづけるちいちゃん  
     みんなですごした家がなくなってかなしいちいちゃん
- 4場面…家族に会えて言葉に出せないくらいうれしいちいちゃん  
     かげおくりをしたら家族に会えて、えがおあふれるちいちゃん



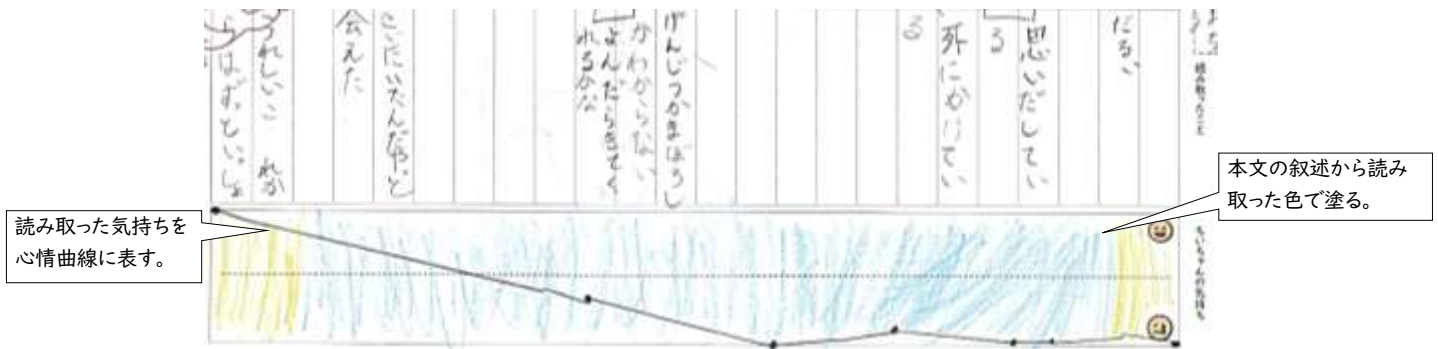
【資料3 児童Aのワークシート(4場面)】

②授業のユニバーサルデザイン化について

本文から、「ちいちゃんの気持ちや様子がわかる言葉」や「色がわかる(想像できる)言葉」を探し(焦点化)、そこから読み取ったことをワークシートにまとめた、ということは①で述べたとおりであるが、ただ言葉で書き表すだけでなく、読み取った気持ちを心情曲線に表し、その背景を本文の叙述から読み取った色で塗らせた(視覚化)(資料4)。児童は、心情曲線をかくことで、主人公の気持ちの変化を視覚的にとらえることができるようになり、その変化する部分についても何となく上下するのではなく、「お父さんがいくさに行ったから少し下がって、いくさがはげし

くなってかげおくりができなくなったからさらに下がった。」「青い空に家族の白いかげが見えたからちいちゃんの気持ちはここで上がったと思う。」と本文の叙述を根拠として発表することができていた（共有化）。また、本文の叙述から読み取った色で背景を塗ったところ、低位の児童も場面の移り変わりをつかむことができ、主人公ちいちゃんの気持ちの変化と色の変化が結びついている（＝情景）ということを視覚的に理解することができた。読み取ったことや心情曲線、色を既習掲示として教室の壁面に貼ったところ、よりいっそう場面や心情の移り変わりがわかりやすくなり、児童は第3次の読書感想文を書く際まで何度も既習掲示や自分のワークシートを見て振り返る様子が見られた（資料5）。

また、その場面のちいちゃんについて自分はどう感じたかをグループで話し合う場面では、ジャムボード上で自分の名前の付箋を自分の考えに合わせて貼ることで、自分の考えや相手の考えが可視化できるようにした（視覚化）。これについては③で詳しく述べる。



【資料4 児童Bのワークシート(4場面)】



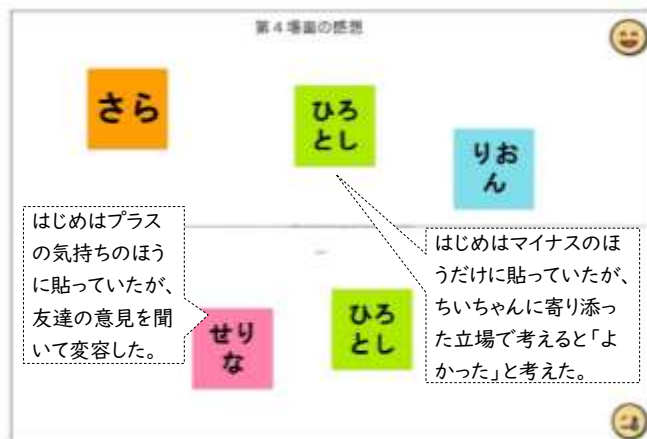
【資料5 教室壁面に貼った既習掲示】

### ③自分の考えを明らかにした対話について

自分の考えに自信がもてない、思い浮かんだことをうまく言葉で表現できないという児童の実態から、授業の中ではペアやグループでの対話の場面を毎回必ず設定した。ペアでの対話は、見つけた言葉や読み取った気持ちなどの確認の場面で多く設定したこともあり、グループでの話し合いに比べて肩の力を抜いて取り組んでいる児童が多かった。ペア対話についてはあえて話型は指定しなかったが、「私も同じところを選んだけど、こう書いたよ。」「それってつまりこういうこと?」と対話を通してより適切な言葉で表現しようという姿勢が見られた。

一方、グループの話し合いの際には、自分の考えをワークシートに書く段階から話型カードや板書で話型を示したことで、本文中の言葉を使って話型に沿ってまとめようとする姿勢が見られ、多くの児童が安心して話し合いに参加することができた。その場面のちいちゃんについて自分はどう感じたか、というテーマでのグループでの話し合いの際には、ジャムボード上で自分の名前の付箋を自分の考えに合わせて動かすことで、自分の考えや相手の考えが可視化できるようにした（資料6）。すると、自分の付箋とほかの子の付箋の位置を見比べ、「〇〇さんと違って・・・」「△△さんと似ていて・・・」と相手と自分の考えの相違に触れながら自分の意見を発表する姿や、友達の発表に対して「私も同じ」「そういう言い表し方もあるのか」と自然に反応する姿が見られるようになった。中には、友達の発表を聞いて、自分の付箋の位置を変えたり、新たに付箋を付け足したりするなど自分の考えの変容が見られた児童もいた。

4場面では、それまでの場面に比べて大きく児童の感じ方が分かれた。「ちいちゃんがずっと探していた家族とようやく会えてよかった。」というプラスの感じ方と、「ちいちゃんの命が空に消えてしまって悲しい。」というマイナスの感じ方である。この感じ方の違いについては、グループ、さらにクラス全体で「どうして感じ方がこんなに正反対になるのか。」「どちらも納得できる。」「ちいちゃんはきっと今満足しているはず。」「でも自分が死んだとわからないまま命が消えるのはやっぱり悲しい。」と活発な意見交換がされ、そこから、『ちいちゃんに寄り添った立場』と『読者としての立場』では感じ方が異なることや、家族に会えたが無邪気に喜びちいちゃんの姿と命が消えたという現実とのギャップこそが戦争の悲しさを表しているという深い読みにつながる事ができていた。



【資料6 ジャムボード上に自分の考えに合わせて付箋を貼る】

#### 4 研究の成果と課題

##### (1) 研究の成果

本文中の、特に気持ちを表す言葉や様子を表す言葉を丁寧に確認しながら学習を進めたことで、「うれしい」「悲しい」などの直接的な表現でなくても気持ちを表すことができることを知り、叙述から登場人物の気持ちを読み取ろうと一つ一つの言葉についてよく考える様子が見られるようになった。多くの児童が本文中の叙述を根拠に登場人物の気持ちを深く読み取ることができており、言葉を大切に文章を読む姿勢については一定の成果を上げることができたように思う。また、自分の発表やその後の感想文にも、それらの言葉を使う様子が見られ、語彙が広がったと感じられた。

読み取った気持ちを心情曲線に表し、その背景を本文から見つけた「色がわかる(想像できる)言葉」の色で塗ったことで、どの児童も視覚的に登場人物の気持ちを場面の移り変わり結び付けて読み取ることができていた。言葉からすぐに気持ちを読み取ることが難しい低位の児童も、「色がわかる(想像できる)言葉」を見つけることやその色で背景を塗る活動にはとても意欲的に取り組んでおり、どの児童にもわかりやすい授業を行う授業のユニバーサルデザイン化が、教材への理解の深まりや国語への意欲が高まりに大いに有効であったと言える。

対話の場面を多く設定したことで、一人で考えがまとめられなくても対話を通してよりよい考えにしていこうという意識が児童の間に生まれていた。また、話型カードやジャムボードを活用したことによって、自分の考えや相手の考えが整理され、自分と相手の意見の相違を考えながら聞いたり、相手の意見に対する自分の考えを伝えたりすることができ、対話を通して考えを深めることができていたと感じる。

##### (2) 今後の課題

心情を色で表すことや心情曲線に表すことは視覚的に捉えやすく有効性があるが、一方で、本文中の言葉から離れてイメージだけで捉えてしまう可能性も大いにある。あくまでも本文に沿った正しい読み取りとなるよう、常に教材を大切に作る姿勢を、教師も児童も持ち続けなければならないと感じた。また、3年生の実態では文字入力に時間がかかるため難しかったが、ジャムボードの名前の横に短く考えを入力したり、班で話し合ったことをジャムボード上に短くまとめて書いたりするなど、ICTもさらに活用できるとより児童の理解の一助となると思う。特に低位の児童や、国語に苦手意識をもつ児童にとっては、ICTはとても有効なツールである。国語の授業において「書く」という活動はもちろん大切であるが、上手に使い分け、活用していきたい。今回、児童の語彙の広がりは感じる事ができたが、あくまでも教科書の本文に出てきた限定的な範囲のものであるし、何よりその言葉を自分のものとして適切に使いこなせるようにならなければ、本当の意味で語彙が豊かになったということとはできない。国語の授業だけでなく、日常のあらゆる場面で、獲得した語彙を適切に使いこなし、伝え合うことのできる児童の育成を目指して今後も取り組んでいきたい。